

建国科技大学（台湾）

国際文化交流学部 国際文化交流学科 野村夢佳

留学期間：2022年9月21日～2023年2月7日

台湾での留学生活は新型コロナウイルスの影響により約半年間と短い間でしたが、一日一日を大切にしよう意識しながら過ごすことが出来たため、結果として密度の濃い留学経験になったと感じています。そこで今回は私の台湾留学生活について紹介させていただきます。

まず、台湾での学生生活についてです。私は公立小松大学の国際観光・地域創生コースに所属しているため、建国科技大学でも観光学部を選びました。現地の学生と同じように授業を受けるので、授業の内容を聞き取るのは難しいですが、先生や学生は優しい人が多く、助けをもらいながら授業を受けることが出来ました。また、留学生向けに中国語を学ぶ授業もあるため、中国語を学びながら観光についても学ぶことが出来るのも建国科技大学の魅力の一つだと思います。



次に、建国科技大学がある彰化についてです。彰化は比較的天候が安定していて、雨も他の地域に比べて少ないため、とても過ごしやすかったように感じます。しかし、暑い日は本当に暑いので日焼け対策と熱中症対策が少し大変でした。また、台湾の中心付近に位置しており、台北や台中、台南などへのアクセスが良いため、旅行に行く際にとっても便利でした。

最後に、台湾での活動についてです。台湾では様々なことに挑戦してみようと思い日台交流に積極的に参加しました。それにより同年代の人とだけではなく、異なる年代の人たちとも会話する機会を得ることが出来ました。また、現地の方との会話や町で見かける中国語など、目に映るもの、聞こえてくるものすべてが私にとって中国語教材であり、“生きた表現”を多く学ぶことが出来ました。留学生活を送る中で、初めは自分の言いたいことが伝わら



ない、細かな表現を中国語で伝えられない等により、会話が広げられないという課題を抱えていました。しかし、伝わるまで表現の仕方を変えてみたり、どう表現すれば良かったのかを調べてみたりして、少しずつ相手との会話のキャッチボールが出来るようになり、会話がスムーズにできたときはとても嬉しかったです

この半年間の台湾留学は楽しいことばか

りではなく、辛いことや大変なこともありましたが、それ以上に得られるものが多くあり、中国語力の向上だけでなく、人としてもスキルアップできた台湾留学だったと感じています。